

山田康文氏作

「ごめんなさいね おかあさん」

ごめんなさいね おかあさん
ごめんなさいね おかあさん

ぼくが生まれて ごめんなさい
ぼくを背負う かあさんの
細いうなじに ぼくは言う

ぼくさえ 生まれてなかったら
かあさんの しらがもなかったらうね

大きくなった このぼくを
背負って歩く 悲しさも
「かたわの子だね」とふりかえる
つめたい視線に 泣くことも

ぼくさえ 生まれなかったら

(母親からの返詩)

わたしの息子よ ゆるしてね

わたしの息子よ ゆるしてね

このかあさんを ゆるしておくれ

お前が脳性マヒと知ったとき
ああごめんなさいと 泣きました
いっぱい いっぱい 泣きました

いつまでたっても 歩けない
お前を背負って 歩くとき
肩にくいこむ重さより

「歩きたかろうね」と 母心

“重くはない”と聞いている
あなたの心が せつなくて

わたしの息子よ ありがとう

ありがとう 息子よ

あなたのすがたを 見守って
お母さんは 生きていく

悲しいまでの がんばりと
人をいたわる ほほえみの
その笑顔で 生きていく

脳性マヒの わが息子

そこに あなたがいるかぎり

(息子からの返詩)

ありがとう おかあさん

ありがとう おかあさん

おかあさんが いるかぎり
ぼくは 生きていくのです

脳性マヒを 生きていく

やさしさこそが、大切に
悲しさこそが 美しい

そんな 人の生き方を
教えてくれた おかあさん

おかあさん

あなたがそこに いるかぎり